

平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 東浦町教育委員会 】

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域 第 6 学年 (数と計算Ⅱ)	
(2) 単元名または活動名 「分数のたし算とひき算」 ()	
(3) 対象児童の実態 (3 人)	
A 児	第 6 学年 国籍 (ブラジル) 母語 (ポルトガル語) 在籍年数 (5 年)
	・日常会話には困らない。第 1 学年の漢字は書けるが、第 2 学年の漢字で読めない字が多い。 ・筆算のたし算・ひき算・かけ算はできるが、筆算のわり算はまだできない。
	第 6 学年 国籍 (ブラジル) 母語 (ポルトガル語) 在籍年数 (5 年)
B 児	・日常会話には困らないが、第 2 学年以上の漢字は読めない。 ・筆算のたし算やひき算はできるが、筆算のかけ算やわり算はできない。全般的に学習を理解するのに時間がかかり、学習への意欲も低い。
	第 6 学年 国籍 (ブラジル) 母語 (ポルトガル語) 在籍年数 (5 年)
C 児	・平仮名や片仮名は読み書きできるが、言葉の数が限られており、日常会話で困ることもある。 ・筆算のたし算・ひき算・かけ算はできるが、筆算のわり算はできない。計算はいつもゆっくりである。
	第 6 学年 国籍 (ブラジル) 母語 (ポルトガル語) 在籍年数 (5 年)
(4) 目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・分数で表すよさが分かり、進んで分数の性質を調べたり、分数の加減を使う問題を解いたりする。 ・分数の相当大小の比べ方の考え方をを用いて、異分母分数の加減計算の方法を考えることができる。 ・異分母分数の加法、減法ができる。 ・等しい分数とその性質を知り、分数の約分、通分について理解できる。 	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「～の方が大きい。」という表現に慣れる。 ・分数の読み方や分数に関する用語に慣れる。 	

2 学習活動

指導者（日本語適応教室担当者）、指導補助者（日本語適応教室補助員）			
全体の時間数（9 時間）			
学習活動の状況、指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
①異分母分数の大小や計算に興味をもつ。	取り出し	・数直線に表して比べたり、小数に直して比べたりする方法を助言する。	◇本時に関連する計算練習をする。 ◇本時のねらいをしっかりと捉えさせるため、課題を声に出して読ませる。
②等しい分数のつくり方を考える。	取り出し	・等しい分数は無限に存在することを理解させる。	◇等しい分数のつくり方を確認した後で、 $1/2$ に等しい分数を数多く見つけさせる。
③約分の意味を知る。	取り出し	・わる数が分母と分子の公約数であることに気付かせるとよい。	◇カステラの模型等、具体物を提示して分数の大きさを理解させる。 ◆2 つの分数の大きさを比べ、大きい方の分数を言い表す。
④通分の意味を知る。	取り出し	・分母の公倍数を見つけることを押さえ、分母同士を掛け合わせる方法も認める。	◆分数の読み方に慣れる。 ◇2 つの分数の表記が異なっても、大きさの同じ分数のあることに気づかせる。
⑤掛け合わせた数が分母の最小公倍数にならない場合の通分の仕方を考える。	取り出し	・分母の最小公倍数で通分する方法を練習させる。	◆2 つの分数の大きさの関係を言い表す。 ◇分母を掛け合わせる方法は、手順は簡単であるが、分母が大きくなり、分数の大きさが分かりづらくなることを体験させる。
⑥異分母分数の加法の計算の方法を考える。	取り出し	・実物を用意して、その量を見せることで、量感覚を育てる。	◇量分数については、リットルますを用いて実際にその量を見せる。 ◆文章題は声に出して読んでから、問題を解くようにさせる。
⑦異分母分数の減法の計算の方法を考える。	取り出し	・いろいろな関係にある分母の組み合わせと約分が組み合わさった問題を行う。	
⑧～⑨ 確認問題を行う。	取り出し	・確認問題を解く活動を通して、「知識・理解」を評価する。	

3 成果

① 対象児童に対する成果

- ・具体物を使うことで、分数の意味を理解しやすくなった。分数の大きさ比べで、分数を何回も声に出して言うことになり少し慣れてきた。AU カードを掲示して言い表し方を知らせることで、わかったことを発言しやすかった。
- ・各自の計算力に合わせて個別に学習を進めていくことが多かったが、意見を出し合い学習を進めていくことで学習に興味を高める児童がいた。

② その他（他の在籍学級の児童や学校・保護者等学習環境に対する波及効果等）

- ・授業を公開することにより JSL の指導法について、本校職員に対して意識を高めることができた。

4 課題

○分数の概念を理解させるには、教師の提示だけでなく児童にテープを切り分けるなどの作業をさせると、より理解させやすい。その後、分数の大小を日本語で言い表した方がよかったと思う。児童の活動のさせ方を工夫していきたい。

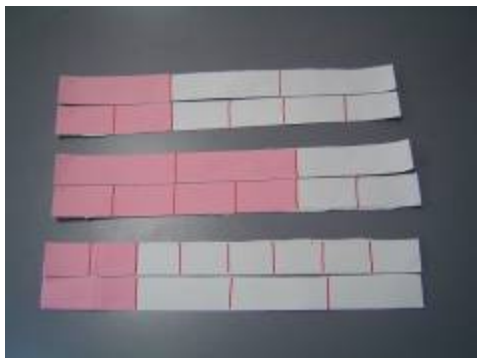
○在籍学級での学習に追いつきたいという思いから、学習内容を盛りだくさんにしてしまいがちであった。児童の持っている力と児童につけたい力を吟味し、計画をしっかり立てて指導していくことが重要である。



3分の1に切ったケーキ



分数の大きさを比べる帯



同じ大きさの分数を探す帯



AU カード